

日本をキリストへ 協力

25

「日本をキリストへ」
伝道団体連絡協議会

〒101 東京都千代田区神田駿河台2-1

TEL 03-3296-1001

教会と各種伝道団体

伝道団体連絡協議会顧問
岡村又男

日本の福音派の教会が成長してきた要因の一つに各種伝道団体の働きがあったことは否むことはできない。一つの地域教会や教派ではできない働きが、この伝道団体の中にあるからである。

日本福音同盟の再編成以来、各種伝道団体と教会との位置づけが論議されているが、当初、ある伝道団体は外国から日本伝道のために、直接プログラムを持ち込んで、教会の外から協力を求めるような方法で行ってきた。教会の主体性のない伝道は実りが少なく教会内にも問題を持ち込んできたと言える。やがて、日本の教会が成長してきたと同時に伝道団体の責任体勢が変り、日本の教会によって支えられる必要が生じてきたといえる。

最近再び「パラチャーチ論」が問われるようになってきているが、本質的には教会論と宣教論の問題と言える。教会は、主イエスをかしらとする世界的な公同教会である。そういう意味において、各種伝道団体も「教会の働き」と言えよう。しかし、具体的な宣教論からすれば、公同教会に所属するそれぞれの地域教会であり、主日礼拝を守り、そこから信徒一人一人が宣教に遣わされていくのである。

各種伝道団体に働く人々も、それぞれの地域教会に所属し、

主日礼拝を忠実に守っている人々であるはずである。その中から特別な伝道団体の働きに重荷が与えられ、各種伝道団体の働きに関わっているのである。この働きには、一教会(教団)で推進できるものもあるはずである。また、一教会(教団)ではできない専門的な働きもある。

基本的には「教会」の働きであり、各個教会だけではできない働きを、重荷を与えられた人たちが集まり、教会に与えられている使命として、それぞれの働きが進められているのではないだろうか。

各種伝道団体から各個教会に協力の要請があるが、地域教会は人材的にも経済的にも協力限度を持ちながら、その協力範囲を定め、教会の働きとして積極的に受け止め、協力を進めることが必要なのではないだろうか。

各種伝道団体は、教会の宣教として宣教論をしっかり持つべきであり、今まで行なってきた働きの単なる継承ではなく、「教会」の働きとしての宣教論に立ち、また、「教会」は、牧師ひとりの考えではなく教会としての主体性をもった受け止め方をしなければならないのではないか。

ワールド・ビジョン・ジャパン

〈本部事務所〉〒169 東京都新宿区百人町1-18 10 太陽堂ビルディング2F
 ☎03-33367-7251
 FAX03-33367-7652
 〈チャイルド・スポンサーシップ事務所〉☎03-33367-7621

ワールド・ビジョン・ジャパンは、キリスト教精神に基づく国際的民間援助機関として、一九八七年に活動を開始し、一九八八年には独自の理事会を持つ組織として設立されました。密接な協力関係にあるワールド・ビジョンは、国連・経済社会理事会に公認・登録され、国連諸機関とも協力して活動しています。

①チャイルド・スポンサーシップ。開発途上国に住む子供たちとその家族地域全体が自立するために行っている長期的な地域開発の援助です。具体的には、子供の学費学用品等の援助、保健衛生の復及、井戸・トイレの設置、識字教育、職業訓練などです。

②特別プロジェクト。児童保護、エイズ対策、学校建設、植林、病院援助など特別な必要に応える援助です。

③緊急援助。災害や紛争などで生命の危険にさらされている人々のために、食料や生活必需品、復旧資材等を被災地に援助しています。

④開発教育・人材派遣。ニュースレターの発行、ブランドファミン（愛の飢餓体験募金）、現地へのツアー、セミナーなどを通して、啓発活動を行っています。また、現地より要請のある人材を募集し、派遣します。

以上のような働きを、チャイルド・スポンサーの募集や、ラブローフを通して行っています。私どもの働きが教会の業の一部として続けられるようお祈りくだされば幸いです。



CS成長センター

〈事務所〉〒101 東京都千代田区神田駿河台2-1 OCC内
 ☎03-32333-2681
 FAX03-3219-5945

一九五二年一月設立。一九五一年戦後の混乱期が終わる頃、中国で伝道していたE・W・フィッシュン師が来日したことから始められた。多くの日本人牧師と宣教師の協力を得て、「日本日曜学校助成協会」を設立。一九七九年よりのこのことは社教会教育部発行の「成長」の働きと合同。一九八九年四月、教会の新しい時代の要請に応えるべく、名称を「CS成長センター」と改め現在に至っている。

〔目的と対象〕

①教会学校の幼稚科から成人科まで教案・教具の出版。②教会学校の教師および信徒リーダーを養成する書籍の出版。③教会学校の教師を養成する訓練セミナーの開催。④視聴覚教材の開発と発行。⑤クリスチャンホームの子弟の聖書教育に関する教材の開発および出版。

〔働きとビジョン〕

幼稚科から高校科まで、原則として同じ聖書箇所から学ぶが内容は各分級ごとに、発達年齢に合わせて使いやすい統一教案誌「成長」の発行。『教会学校教師ハンドブック』『創意と工夫』とう教師養成書。子どもたちに聖書を楽しむなど聖書物語、聖書絵本、『アートンと行くバイブルランド』『体の中の探検旅行』その他。CS教師養成ビデオ、紙芝居、地図、図表等。また、CS教師養成講座を開催し、日本の教会学校が祝福され盛んになるようにと願いつつ働きをすすめている。

日本福音クルセード

〈事務所〉〒101東京都千代田区神田駿河台2-1 OCC内
☎ 03-3329-4414

一九五六年四月一日設立。日本福音クルセードの主幹本田弘慈は、日本イエス・キリスト教団・神戸中央教会の牧師をしていたが、一九五六年二月十八日全日本伝道の使命を確認し、巡回伝道者として立ち上がる。彼は青年時代よりルカ九章六二節により、巡回伝道の召命を受けていた。

最初は本田クルセードと称し、エデュー・カーネス宣教師、有賀喜一協力伝道者とともに日本の各地に伝道を開始した。その後、本田の上京に伴い、一九六六年七月一日事務所を東京お茶の水の現在の所に移し、名称も日本福音クルセードと改称し、今日に至っている。

なおこの間、総動員伝道にも協力し、海外十数ヶ所を巡回する。一九八七年十二月十八日、アメリカ・バイオラ大学から名誉神学博士号を授与され、一九九〇年には武道館にてゴスペル90を開催。一九五六年より六五年までは関西方面が活動の中心となっていたが、一九六五年四月四日以降、東京を中心として全国的福音伝道の活動となり、その間アメリカ、カナダ、ブラジル、ヨーロッパ、中国、台湾、アルゼンチン、ベトナム、タイの巡回伝道の奉仕にあたってきた。



日本福音クルセードの目的は、①日本の全町村に対して出来る限り地元諸教会の協力の許に福音を伝える、②聖会、修養会による教会成長への奉仕、③伝道新聞「グッド・ニュース」の発行（写真・発送作業）がある。一九九二年までの講演回数は、三千二百三十七回（内、クルセード四百十八回）となった。

リビングバイブル ジャパン

〈事務所〉〒160東京都新宿区信濃町6 いのちのことは社内
☎ 03-3353-9345
FAX 03-3226-8395

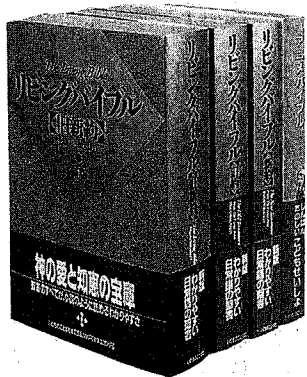
日本語版のリビングバイブルは、一九七五年に新約が、一九七八年には旧新約が発行されました。以来、わかりやすい日常語の聖書として、初めて聖書を読む読者を初め、従来の聖書に親しんでおられる読者にも、広く用いられてまいりました。それはリビングバイブルが福音的立場に立ち、キリスト教の専門用語をできるだけ用いずに、今、私たちが日常生活で普通に使われていることばで、わかりやすく意識された聖書だからです。

しかし、リビングバイブルは、旧新約が発行されてから十五年を経過したことであり、改めるべき点は改め、さらに広く継続して用いられるリビングバイブルを目指すことにいたしました。改訂の要点は次の通りです。

- ①キリスト教の言葉遣いと敬語を見直しました。
- ②差別用語、不快用語を見直しました。
- ③誤解を与えやすい言い換えを見直しました。

改訂は、「日本語版リビングバイブル改訂委員会」を設置して行われました。新版は、便利で豊富なガイドが付いて、一九九三年秋に『新約』『アニメバイブル』『旧新約合本』『旧約』が、発行されました。

リビングバイブルは、聖書を一度も読んだことのない方への伝道用聖書として、また聖書を読み始めた方々が聖書に親しんだり、聖書通読をする時の助けとして用いられています。



地域教会と超教派伝道団体 上

「パラチャーチ考」から

キリスト者学生会総主事 片岡 伸光

「パラチャーチ考」をめぐる経緯

一九九三年九月六日から八日まで、軽井沢の恵みシャレーにおいて、伝道団体連絡協議会主催の研修会がもたれました。その中で「パラチャーチ考」というテーマのもとに、中川健一先生と私が発題をさせていただき、それまでの働きの中で気づかされたことを話し、参加者で学びの時をもちました。

もともとこのテーマは、同じ題名で書かれたクリスチャン新聞の論説からとられました。その中で論者の先生が、パラチャーチには教会を益するものもあるが、教会を食いものにして自己の発展ばかりを目指すものもあると、いわば警鐘を鳴らしてくださいました。私自身、伝道団体が教会を踏み台にして自己拡張するようなことは本末転倒と考えていますし、その文章にはうなづくところが多かったです。しかし、その中で、引用文ではありますが、「小判絞のように食いものにする」という表現があり、いくつかの団体の職員は、「自分たちは、主と教会のためと信じて働いてきたが、教会からはそのように見られているのか」と考え込みました。それで、役員会はこのことを前向きに受けとめて、きちんと学ぼうと、研修会で取り上げたのです。

きちんと学ぶとはいえ、現在の日本では、この問題を包括的に究めた、いわゆる専門家はいませんから、それぞれの経験をもちより、謙遜に学ぶ他はありませんでした。今回、編集者から、そのときの私の発言を紙面で再現せよと要請を受けましたが、そのときの聴衆と紙面の読者は別な人が多いこともあり、問題を少し整理をしつつ、あらためて書き下ろすことにしました。

パラチャーチとは

私自身は、一つの教派の一地域教会の会員でありつつ、超教派の学生伝道団体に働いている者で、自分や自分の団体がパラチャーチだと思っただけはあまりありません。私の理解に間違いなければ、この語は一九七〇年代になって用いられ始め、いつの間にか定着し、私の団体も知らない間にそのカテゴリーの中に入れられていました。

ペラとは、ギリシャ語からきていて、もともとは「傍らに」という意味ですので、教会の傍らにあるもの、ということでしょうか。とすると、この用語のおかげで、私自身は、教会に委ねられている学生伝道の働きをしているのに、いつの間にか教会の傍ら、傍らならまだしも教会の外に位置づけられたような錯覚におちいります。それは、

少なくとも私たち伝道団体が望んでいることではないと、私は信じます。

アメリカでは、この用語は、正確にはパラ・ローカル・チャーチのことで、一地域教会とは別な教会の頭であるキリストに仕える働きのことを意味すると聞きました。確かに、伝道団体の多くは、一地域教会の範囲におさまらない働きをしています。また、活動の目標、会計、働きの理事運営も、一地域教会とは別に進められます。その意味で両者には明確に違いがあります。違いがあるとしても、守備範囲が異なるだけで、両者はキリストに仕えるものであるということです。今回、貧しい筆を取った理由も、まさにそのことを確認し、それこそが『日本をキリストへ』への最短路であることを共に覚えたいからです。

地域教会と伝道団体

それでは、地域教会と伝道団体の関係はどのようなものでしょうか。まず、伝道団体に従事するものは、一参加者であれスタッフであれ、一人残らず地域教会の会員であるということです。その意味で、いかに「パラチャーチ」と言われようとも、伝道団体は地域教会と切っても切れない関係にあることが、いや切ってはならない、命のつながったものであることが明白です。

つづく

発行日 一九九三年十二月二十日
発行者 本田 弘 慈
編集者 鈴木 繁